首夏二首
布士将舍
咲くと見し花はあらなく春暮れて
繁る青葉繁る笑今更に
花散りぬ青葉繁りぬ春。
世の常ならば夢かぞと思ふ
人
夢に子規を聞く
同
人

常夏
常夏

藤 衣
鶴
水

はなしてし花見るたびにいとやしく
はなしてし花見るたびにいとやしく
はなしてし花見るたびにいとやしく
かなし君の花見るたびに
がんの花見てよめる
妹

ふらしきる君しささまは中々に
あはれをそふる藤波の花

母君のうせ玉ひけるかう
古里をたちも都へのはるると
てよめる
妹

いくたびかためしはかれて故里を
かけて今雨のささかたきかな

兄

とあるに母君のうせ玉
ひけれどよめる